

## 第一学年国語科指導案

1日 時 令和元年10月2日(水) 第2時限

2学年・組 第1学年3組在籍27名

3場所 第1学年3組教室

4単元名 こえに だして よもう

教材名 「くじらぐも」

5題材設定の理由

児童観

本学級の児童は、自分の考えを発言できる者が非常に多い。読書が好きな児童も多く、朝の読書の時間や、休み時間に絵本などを読んでいる児童の姿をみるのがよくある。活発なクラスで、やや切り替えが遅い場面もあるが、やるべきことはきちんとこなすことができる。自分の言葉で自分の考えを述べたり、体を使い表現したりすることが好きな児童が多い。そのため特に自分の気持ちを発表する機会の多い国語を好きな児童が多い学級である。音読は、みんなで声をそろえて大きな声で読むことができるが、一人で読むような時に恥ずかしがり、あまり大きな声で音読できない児童もいる点が課題である。

題材観

本題材は、小学校学習指導要領国語の第1学年及び第2学年の内容A話すこと・聞くことウ並びにB書くことイ、C読むことエを受け、短くわかりやすい会話文で書かれているため想像を膨らませながら、みんなで声に出して読むことを楽しめる教材である。自分たちと同じ一年生が、体育という身近な現実の中から、大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら大いに楽しんで読むことができる。読み進めていくうちに、児童たちは物語の子ども達に自分を投影させ、物語に入り込めるであろう。また、会話文にかぎをつかうことをはじめておさえる単元である。

指導観

児童は、一年上巻「おおきな かぶ」「ゆうやけ」で簡単な劇をするなどの動作化したり声に出して楽しむことを経験している。今回はそれに加え、くじらぐもと子どもたちが会話をしているかぎかっこ「」の中をどのように読みたいか、自分たちの言葉で書いてまとめさせたいと考えている。自分たちの「どう読みたいか」考えさせたワークシートを用いて、二人組ないし班で音読活動を取り入れたい。また登場人物になりきってくじらぐもに乗った時どういうことを考えていたかを想像させる日記を書く活動も行う。

6指導目標

- ・場面の様子を想像し、その様子がわかるように音読できる。
- ・自分の言葉でどのように音読したいか伝えることができる。
- ・物語の好きな場面を見つけ、その理由を自分の言葉で書ける。
- ・かぎ「」の使い方を理解することができる。

7 評価基準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
単 元 へ の 評 価 基 準	想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。…①	会話文を工夫しながら、場面の様子がよくわかるように音読している。…② お話の好きなところを見つけて書いている。…③ 想像したことを、自分の言葉で書いている。…④	会話はかぎ「」を使って書くことを理解している。…⑤
具 体 の 評 価 基 準	題名や挿絵などを見て、どのような話か想像を膨らませている。 くじらぐもと子どもたちの冒険の後、くじらぐもと子どもたちがどんなことを考えたか自由に想像している。	くじらぐもと子どもたちの会話をどのように読むか声の大きさ、速度、どんな気持ちを込めるか考えながら、自分の言葉でまとめて読んでいる。 お話の中で好きな場面や、文章を見つけてどんなところが好きか自分の気持ちを表現することができる。	会話文をかぎ「」を用いることを正しく理解し、身近にあった出来事を表すことができる。 文章に表す際、句読点やかぎの場所や使い方が正しい。

8 指導計画 (全時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
第一次 二時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名を聞いて、どんな話か想像する。</li> <li>・全文を読み、感想を述べる。</li> </ul>	題名だけでなく、挿絵なども見せるようにし、想像力を働かせる。	想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。…① (ノート・発言) 話の好きなところを見つけて書いている。…③ (ノート・発言)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を用いて、あらすじをつかむ。</li> <li>・かぎ「」の使い方を学び、かぎを使って自分のことを伝える。</li> </ul>	五枚の挿絵を話の順に並べ替え、誰が何をしたかを場面ごとにおさえる。 かぎの形とます目の中の位置、かぎの前後を改行することなど、書き方を指導する。	会話はかぎ「」を使って書くことを理解し、句読点やかぎを正しく用いている。…⑤。(ノート)
第二次 四時間 *本時 二時間 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文を子どもたちとくじらぐもの役に分かれて、どのように読みたいか考えさせ、音読する。(二時間)</li> </ul>	助詞「も」や、会話を繰り返させていることに注目させ、読み方を工夫させる。	会話文を工夫しながら、場面の様子がよくわかるように音読している。…② (音読) 想像したことを、自分の言葉で書こうとしている。…④ (ワークシート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>くじらぐもに乗ったこどもになりきって、会話を付け加え、音読を楽しむ。</li> </ul>	付け加える子どもの言葉を行間の吹き出しに書き、音読させる。	想像したことを自分の言葉で書こうとしている。…④ (ワークシート) 想像を広げながら、会話文を工夫し、場面の様子がわかるように音読している。…② (音読)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第五場面を読み、その日一日体験したことを、子どもたちとくじらぐもになりきって日記を書く。</li> </ul>	これまでの授業で学んできたことを思い出し、くじらぐもと子どもたちの気持ちを振り返えさせるようにする。	想像したことを自分の言葉で書こうとしている。…④ (ワークシート)
第三次 二時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みたいところを班で決めて音読発表会をする。</li> </ul>	これまでに学習した音読の工夫をもとにしてどう読むかを考えさせる。	話の好きなところを見つけて場面の様子がよくわかるように音読している。…② (発表)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの音読を聞き感想を交流させる。</li> </ul>	互いの音読のよかったところに気づかせるようにする。	場面がわかるように想像を膨らませて読んでいる。…② (発表) 感じたことを自分の言葉で書いている。…④ (ノート)

9本時の展開 第二次二時間目  
めあて きもちをこめてよもう

	学習過程・発問	予想される子どもの反応	●留意点○支援◎評価
導入 5分	<p>P4~7の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>P4~7ってどんな話だっただろう。</p> </div>	<p>「おうい。」ってよぶ。 クジラに飛び乗ろうとする。</p>	
展開 35分	<p>P8~9音読する。 P8~9の「」が誰の発言か考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「」がだれの言葉か考えよう。 くじらなら く 子どもなら こ を教科書に書こう。</p> </div>	<p>「天までとどけ、一、二、三。」は全部こども。 「もつとたかく。もつとたかく。」はくじら。</p>	<p>○フラッシュカードを用いて視覚的に誰のセリフかわかるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>きもちをこめてよもう</p> </div>			
	<p>P8~9の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>P8~9は、誰がどんなことをしている場面かな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>一回目はどれくらいの高さとべたかな。 二回目はどれくらいかな。</p> </div> <p>かぎ「」をどう読みたいか隣同士で自由に考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「」をどう読みたいかな？考えて書いてみよう。</p> </div>	<p>くじらぐもにのろうとしている。 かぜがふく。 三回ジャンプする。</p> <p>三十センチ 五十センチ</p> <p>どんどん声を大きくしたいな。 くじらのセリフはゆっくり読もう。</p>	<p>●挿絵を貼り視覚的にわかりやすくし想起させやすくする。</p> <p>●三十センチ、五十センチをものさしで示して、視覚的にわかりやすくする</p> <p>●実際に二段落の様子を表す活動を行い、各せりふをどのように読めばいいか考えやすくする。</p> <p>●大きさ、速さ、つよさ、どんな気持ちで述べているかを中心に考えさせる。</p> <p>◎想像したことを自分の言葉で書く。…④ (ワークシート)</p>

	<p>隣の席の児童とともに、音読を 発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>隣の子と話しあって、発 表したいなって思う二人 組は手を挙げてくださ い。</p> </div>		<p>○二人の合意の下で発表する か考えさせるようにする。</p> <p>●書画カメラを用いて、ほかの 児童にもどのように読みたい かわかるようにする。</p> <p>◎想像を膨らませ、場面の様子 がよくわかるように音読して いる。…②（発表）</p> <p>●他の児童の発表を聞く姿勢 を作るようにする。</p>
<p>ま と め  5 分</p>	<p>発表を聞いて、感じたことを発 表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今の発表を聞いて、いい ところを見つけた人発表 してください。</p> </div> <p>気持ちを込めて音読する。</p>	<p>「どんどん声が大きくな っていいな。」と思い ました。</p> <p>「こっちにきてほしい。」 という気持ちがよかったです。</p>	<p>◎想像を膨らませ、場面の様子 がよくわかるように音読して いる。…②</p>

10用意するもの

- かぎ『』がかかっているフラッシュカード
- かぎ『』のみが書かれている教科書ワークシート
- 書画カメラ

11 板書例

めあて  
きもちを「めて」よう

へびへも

こ 「天まで とどけ、一、二、三。」  
かぜがふく

く 「もつと たかく。もつと たかく。」

こ 「天まで とどけ、一、二、三。」  
五十センチ

く 「もつと たかく。もつと たかく。」

こ 「天まで とどけ、一、二、三。」  
二十センチ

どのようによもう

大きな  
はやさ  
こえのたかさ  
きもち

空へふきとばし、くじらにのる

〈御高評欄〉

# くじらぐもも

「きまなま」

どうしようも？

◦こゑの大きさ  
 ◦こゑのたかさ  
 ◦よむはやさ  
 ◦どんなきもちでよむか

かんがえよう

②

「天までとどけ、一、二、三。」

④

「もっとたかく。もっとたかく。」

③

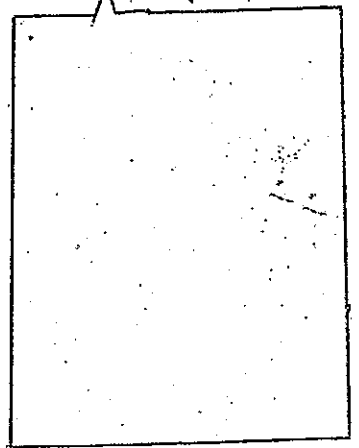
「天までとどけ、一、二、三。」

①

「もっとたかく。もっとたかく。」

②

「天までとどけ、一、二、三。」



◦天  
 ◦手  
 ・センチ